

**I、2025年度 事業報告** 期間：2025年4月1日～2026年3月31日

<はじめに>

1、私たちの暮らしに大きな影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症ですが、感染症法上5類への移行後、社会や経済は回復基調に戻りつつあります。感染者数は落ち着いているようですが、定点当たりの感染者数が7月中旬及び8月中旬以降には鹿児島県も全国で2番目の多さになるなど波を繰り返しました。

法人としては基本的な感染対策を継続しながら事業を継続していますが、感染はまだまだ身近にあります。新型コロナウイルス感染症だけではなく、『百日ぜき』や『麻疹』の報告数が拡大しました。また、インフルエンザ感染症については変異株の拡大により例年より早く流行し、12月には鹿児島県全域で流行発生警報が発令され、1月には新規感染者数が全国最多となりました。こうした中、1月には特養ホーム（ユニット型）でもインフルエンザの感染が拡大しました。地域になくってはならない事業所として利用者様やご家族に安心してサービスを利用していただけよう基本的な感染対策を継続していきます。

2、2024年は診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス報酬の3つが同時に改定されるトリプル改定の年でした。私たち社会福祉法人においても年々経営状況が厳しさを増しています。低く据え置かれた介護報酬、困難さを増している職員確保、物価高騰のもと介護事業所も厳しい経営環境に直面しています。2024年度は訪問介護事業所や居宅介護支援事業所を中心に、事業所の廃止に踏み切らなければならない事業所も多く発生しました。特に訪問介護事業所については今回の改定の影響により2024年末で32都道府県107市町村でサービス提供事業所がゼロになるなど、介護需要が高まる中での報酬引き下げやヘルパー不足など今後更に必要なサービスを受けられない状況となる可能性が高くなっています。2025年1月以降も介護事業の倒産は2年連続で過去最多を更新し、鹿児島の4件を含め全国で176件となりました。こうした中、介護報酬臨時改定が2026年6月に実施されます。処遇改善加算の対象拡大や加算額引上げによる職員への賃上げ効果としては一定の評価はできるものの、事業所本体の経営改善につながるものには程遠い内容となりました。2027年度介護報酬改定に向け議論が本格化している中、物価高騰や利用者減少などによる収益減が全体の8割に達しています。まずは全ての基盤となる基本報酬の底上げを出発点とするべきです。国の施策転換と更なる支援強化が求められます。

3、厚生労働省は、65歳以上で構成する「高齢者世帯」が全世帯の31.4%を占めているという2024年国民生活基礎調査の結果を公表しました。世帯数・割合ともに1986年の調査開始以来、最高を更新しました。また、児童がいる世帯は全世帯の16.6%となり、前年度調査から約76万世帯が減少しました。世帯数・割合ともに、過去最低に落ち込んでいます。高齢者の増加傾向が持続している一方で若年層の減少傾向に歯止めがかからず、医療・介護・年金などの社会保障制度への影響が大きく懸念されます。

こうした中、育児介護休業法（2025年4月、10月）が改正されました。子の年齢に応じた柔軟な働き方を実現するための措置の拡充や育児休業の取得状況の公表義務の拡大、介護離職防止のための仕事と介護の両立支援制度の強化等、仕事と育児・介護の両立を支援することが目的です。制度改正だけではなく、子どもや保護者が安心して保育所等に通える、子どもを預けられるようにすることと合わせ、園や保育士等が安心して保育を担えるような実効性のある仕組みづくりが必要です。未来を担う子どもの心身の豊かな発達と、それを支える実効性のある政策が求められます。

4、2025年は戦後・被爆80年の年でした。NPT（核不拡散条約）再検討会議も2026年4月27日から開催されています。

ウクライナ侵略は甚大な被害を生み続け、イスラエルによるガザでのジェノサイドも貧困も含めた多くの犠牲を生み出しています。犠牲者の多くが女性や子どもなどの民間人です。また、アメリカ・イスラエルによるイラン攻撃など大国による国際法を無視した現実が目前にあります。世界各地で戦火が広がる中で平和な世界を目指さなければなりません。エネルギー不足が深刻化し、医療介護等を含めた材料不足が現実になる中、政府は台湾有事等を念頭に防衛力強化に邁進し、2026年度に過去最高の防衛費予算を計上しています。平和を訴え、核兵器なくす声を大きく広げることが大切です。

国民の更なる貧困と格差の広がりが懸念されている中、格差是正を含む経済対策、外交や安全保障、温暖化対策、物価上昇への対応など課題は山積しています。また、外国人や外国にルーツを持つ人々への差別的な言動や排除の動きが広がっていることにも強い危機感を持つ必要があります。一人ひとりが考え、みんなで話し合い、意見の違いを受入れ、お互いを尊重しあえる社会を大切にしたいと思います。いのちが何より大切にされ、誰もが安心してくらす社会を目指し、社会福祉法人として運営理念の基に事業と活動を役職員一丸となって着実に前に進めていきます。

### <事業活動の特徴>

2025年度事業計画では、「『その人らしく気持ちよく生きる』によりそう。つながるすべての人へ幸せと笑顔を届ける。」を法人の中心テーマとして、3つのサブテーマ「つながりを増やし、地域とくらしの安心を結ぶ」「楽しさや生きがい、こころと身体の健康、くらしを支える事業で役割を果たす」「歴史と理念を深め、学び成長し、一人ひとりが輝き、挨拶と笑顔ある職場づくりに取り組む」を掲げました。

また、重点課題として以下の5点を掲げ、相談会の実施や工夫したサービス・企画の実施、職員育成の取り組みとしての制度教育研修会等を実施しました。

#### 2025年度 重点課題

- 1、多機能なサービスで「その人らしく」をまるっとささえます。総合力と連携で役立ちます。「虹の福祉会まるっとケアにじ」で描いている、在宅支援から通所、介護度や身体機能にあわせた複数の施設まで、多機能で総合的なサービスで利用者の心地よいくらしをささえます。事業の質の向上に取り組み、私たちの特徴として伝え、地域や利用者を選ばれる諸活動をすすめます。
- 2、相談活動を強めます。つながるすべての人の安心と幸せを願い取り組みます。専門家としてのかかわりと、寄り添い共に考えることを大切にします。事業利用者など、対人支援においては、課題解決のアプローチと継続的につながっていくアプローチを支援の両輪として大切にします。地域や対外的に相談窓口等の機能についてわかりやすくし広がりをつくります。
- 3、すべての事業所で事業収益予算の確保に取り組み、継続発展できる経営基盤をつくります。私たちの施設や事業所定員枠は地域福祉の資源であり、事業利用を通じて様々な介護福祉の支援と援助が可能となります。予算に基づく利用者確保の取り組みをすすめます。必要な設備等の投資や職員の生活を守る上でも健全な経営に取り組みます。
- 4、事業の継続・発展の要である人材の確保を強めます。広報活動や学校訪問活動、見学や体験の受入れを工夫します。職員のやりがいと楽しさを大切に、笑顔ある職場づくりに取り組みます。気持ちよい挨拶や感謝の声かけのある職場風土・文化を育みます。
- 5、私たちのありたい姿や実現への「みちすじ」の討議を工夫しながら今後のビジョンづくりに繋がる取り組みをすすめます。

## 1、事業活動

2025年度の上期人事は管理運営体制の課題への対応と今後の管理体制構築に向け、介護及び事務の係長任命や介護主任及び副主任の任命等を行いました。また、6月には居宅管理者の産育休入りに伴う対応（所長交代）と特養ホームの看護職員の内部異動を行いました。

感染症に関しては基本的な対策の徹底に努めていますが、10月中旬以降、特養ホーム（ユニット型）での新型コロナウイルス感染症の感染拡大や1月中旬以降にはインフルエンザ感染症が拡大しました。また、事業計画に基づく職員育成の取り組み（階層別制度教育研修会の開催等）や相談機能強化の取り組みを進めました。制度教育研修会では、事業の質を高める課題や専門家としての他者へのかかわり方の工夫等について、講義や分散会での意見交換を行いながら学びを深めました。毎月開催している相談会では3月までに合計27件の相談があり、必要なサービス紹介等を行い利用に繋がるケースもありました。今後の事業活動に繋げられるよう地域から求められる要望を精査することが課題です。

経営の厳しさは2025年度においても続きました。収支差額では大幅な減収減益となり、例年になく厳しい状況となりました。利用者確保と日当円（件当円）の改善が課題です。特養ホーム及びケアハウスについては空床後のスムーズな入所（居）者受入れや健康管理強化による入院減、短期入所や通所系サービスについては利用者確保やキャンセル後の振替利用、居宅介護支援では担当件数増などが課題となっています。こうした中、2000年度の介護保険制度開始と同時に事業を開始した訪問介護（ヘルパー）事業について、2014年度以降赤字が続き累積赤字を解消できる見込みがないことから2025年度末で事業を廃止しました。

事業継続の為には安定した経営基盤の強化が必要です。その為には利用者確保と安定した利用継続を追求し、予算目標の達成を追求することが重要です。また、事業継続のために必要な職員確保を最重点課題として位置づけ取り組んでいますが厳しい状況が続いています。今後も対策の具体化に取り組めます。具体的な対策を継続・発展させ、全職員協力のもと職員確保や業務改善による笑顔ある働きやすい職場づくりと経営改善を追求します。

### (1) 介護事業

- ①職員体制の安定をめざし採用活動を進めていますが、新卒2人、中途採用22人（正規5人（介護3人、看護1人）、パート7人（介護5人、看護2人）、登録1人）、アルバイト11人（介護てつだい隊）の採用に留まり、依然として職員体制は厳しい状況が続いています。（再雇用への移行は3人（介護パート1人、事務パート1人、保育パート1人））

新卒採用については7月から学校訪問を開始しました。年々職員確保が困難になる中、昨年度に続き、資格取得養成校以外の高等学校への訪問も実施し、無資格者の採用を進めています。また、職員への紹介依頼等（7月～9月、11月～3月を対策強化期間に設定）を強化し、引き続き全職員協力のもと採用活動を進めました。

- ②介護サービスの質の向上においては介護過程の展開を位置づけ、ケア計画に基づき他職種との連携を図りながら質を向上させ利用者満足度の向上に努めています。2024年度より、入所（居）施設では医療連携（協力医療機関連携会議）と歯科連携（口腔ケアの取り組み）の具体化が図られました。今後、特養ホームとケアハウスではこの間の取りまとめと成果を他事業所と共有し発展させることが課題です。引き続き、利用者様の健康管理や身体機能の維持、口腔ケアの向上に努めます。また、ケアプランデータ連動システム導入に向け準備を進めています。

③職員研修は、外部研修の直接参加も積極的に進めています。県老協、介護福祉士会などの研修を中心に多くの職員の参加を進めています。尚、介護支援専門員研修については4人が受験しました。その他、主任ケアマネ研修を1人が受講し修了しました。引き続き事業運営に必要な資格取得を推進します。法人学習会や制度教育を通じて職員一人ひとりが法人理念や役割を意識し、今後のありたい姿をイメージして笑顔のある働きやすい職場づくりを目指します。

また、鹿児島民医連が主催する県連交流集会（主幹：国分生協病院）に4人が参加しました（1人は紙面発表）。「わたしたちはどう働くか ころ健やか・からだ健やかに働きつづけるために」をテーマに田中洋子筑波大学教授の記念講演と指定報告、分散会発表と意見交換が行われ学びを深めました。

④地域との交流においては、地域密着型事業所の運営推進会議は継続して開催しており、会議内でいただいた貴重なご意見等について機関会議にて情報の共有を進めました。また、各事業所では歌や踊りのボランティアの受け入れを積極的に進めています。

町内会の夏まつりなどの行事も開催されています。また、まち美化活動、防犯パトロールへの参加、地域住民の介護アルバイト（介護てつだい隊）の受け入れを進め、地域との交流を進めました。

## (2) 保育事業

①職員体制は落ち着いていますが、新卒職員採用は非常に厳しい状況です。また、利用定員である90人までの受け入れが出来ませんでした（年度末在園児数；83人、年度平均園児数；79.7人）。

保育園の経営改善（園児受入れと費用削減）は事業継続の為にも最重要課題です。

②職員確保の取り組みは、中途採用対策とともに、新規学卒者の受け入れに向けた対策（実習受入れや学校訪問等）の強化を進めます。

尚、2025年度は中途採用1人（正規保育）となりました。

③基本的な感染対策を継続し、子どもを第一にした活動を進めています。また、昨年に続き、5月末には園児、施設入所者、通所事業所利用者、職員との合同での写真撮影や事業所訪問を実施し交流が図られました。

④給食については子どもの食事の重要性を共通認識とし、引き続きよりよい給食をめざして委託業者と連携して取り組んでいます。

⑤保護者との関係づくりについては、入園式で今年度の保育計画をお伝えし、6月には懇談会を開催し、情報の共有と関係づくりに努めました。

⑥一人ひとりの子どもの発達を見極め、気になるところは保護者にお伝えし、必要に応じて関係機関への相談につなげるなど、子どもにとって今必要なことを保護者と一緒に考えることが出来るように努めました。

## 2、人事・管理運営

①職員採用活動は年々厳しさを増しています。職員確保を法人の最重要課題として位置づけ、安定した職員体制を目指して採用活動対策を強化し、計画的に進めています。尚、7月から9月を強化期間とし、功労金制度を活用した職員紹介活動を実施し、1人（正規介護）の採用につながりました。尚、11月から3月を強化期間として追加して職員への協力を呼びかけました。また、紹介会社等も活用し6人を採用しています。（パート介護3人、パート看護2人、登録1人）

引き続きの採用活動強化はもちろん、下期からは特定技能制度を活用した外国人採用に向けた準備を進め、10月からは準備委員会を設置し、11月には熊本県の施設へ見

学を行い、1月には採用面接を実施し、2人の内定を確認しました。(2026年度上期中(7月~8月)からの受け入れを予定し、手続き等準備を進めています)

- ②管理運営については、職責者職務分掌規定にもとづく組織統治の強化が一層求められています。ラインを重視した業務運営を行う上では管理者及び職責者の役割は重要です。世代交代や新たな事業活動の展開に備えた管理者・職責者集団づくりに取り組みます。また、事業計画に位置付けている職員育成の取り組みとして制度教育研修会を開催し、法人理念や接遇、諸規程などの学びの場を設けています。また、今年度の特徴として、役職者研修会(管理者及び主任係長研修)では、役職者の役割や経営・諸規程の運用等を学ぶとともに、事業の質の向上やハラスメント、メンタルヘルス等について学びを深めました。全ての階層でも質の向上や専門家としての関わりについてや今後の法人のありたい姿について議論を深めています。職員一人ひとりが自己の役割を意識し、学び、育ちあうことができる職場を目指して今後も取り組みの具体化を進めます。
- ③介護事業では、鹿児島県社協老人福祉施設協議会の主催で実施している介護てつだい隊の取り組みに呼応し、現在では13人の方々に利用者様のレクリエーション活動や環境整備等を中心に協力いただいています(介護てつだい隊としての期間(3か月)経過後も雇用継続)。また、鹿児島市介護施設ボランティア事業の協力もいただいています。これにより、対人援助サービスとの業務分担が進められています。引き続き日常的な業務改善を追求します。
- ④保育事業では利用定員どおりの園児受け入れが難しい状況が続いています。引き続き定員までの受け入れを積極的に進めます。一方、新卒採用活動は更に厳しくなっています。学校訪問活動や職員からの紹介活動の強化などの採用対策を強化します。

### 3、経営管理

- ①2025年度の法人経営の特徴として、収益は予算・前年ともに下回りました。費用は予算内には納まりましたが、前年を上回りました。収支差額も予算は上回りましたが、前年を大きく下回りました。(減収減益)
- ②利用者確保対策として、施設系では空床対策の強化と入院予防対策、通所系では事業所合同での訪問活動等を継続しています。デイサービスでは積極的に体験利用を受け入れています。  
経営対策の取り組みとして経営対策会議内で経営検討会を開催し、事業所の強みや抱える課題について活発な意見交換の場となっています。今後は利用者確保と同時に日当円(件当円)対策も講じていきます。  
引き続き、複合的なサービスの提供が可能であることを「まるっとケアにじ」を活用し、地域へお知らせして利用に繋がるよう取り組みを進めます。
- ③この間の光熱費増加への対応として、空調機のピーク時の使用を制御するための装置導入を進めました(6月設置)。引き続き経費節減に向けた取り組みを強化します。
- ④事業所責任者による予算管理が厳密な経営管理につながります。特に人件費の管理は経営の根幹に大きく影響します。適正な人員配置を念頭に入れた業務運営を追求します。また、引き続き各事業所による収益と費用の分析を本部と連携しながら進めながらより厳密な経営管理を進めます。

### 4、法人運営

- ①法律や制度を遵守した諸規程にそった法人運営を基本に、制度見直し等に関する情報収集を行い、専門家の協力のもと多様な働き方への対応も含め、引き続き、改善に向

けた政策化を進めます。特に、採用活動を考慮し正規職員を中心とした賃金体系の見直しの検討を進めます。

②引き続き基本的な感染対策を行いながら事業運営を進めています。利用者様や職員の感染がありましたが、大きな感染拡大には繋がりませんでした。今後も基本的な感染対策を行いながら事業継続の為の対応を進めます。

③今後の中長期的な計画づくりをすすめる上で、法人の歴史と理念の再確認が重要となります。

職員一人ひとりが法人の理念の基に事業活動を展開する意識を持ち、個々の役割を果たし前進できるよう制度教育研修会等を通じて共有し取り組みを進めます。

④施設整備については、5月に特養ホーム（従来型）の廊下の一部改修を実施しました。また、1月から特養ホームの浴室改修工事を実施し、2月末に終了しました。

## 5、地域福祉への貢献、まちづくり

①鹿児島県社会福祉法人経営協議会の取り組む地域貢献事業（おもいやりネットワーク事業）に継続して参加し、1件の相談対応を行いました（2月）。地域の抱える様々な課題の共有と取り組みの参考とします。

②介護・保育の学生実習やボランティア体験などの受け入れについては、要請のあったものについては積極的に対応しています。今後も実習や交流等を通じて、介護・保育の魅力と展望を広げていきます。

### ※実習受け入れ状況（2025年度実績）

	事業所	期間	学校名	学年	人数	備考
介護	ホーム	5/26～5/30	鹿児島県立開陽高等学校	3	3	
		6/17～7/11	鹿児島県立開陽高等学校	3	2	
		8/4～9/5	鹿児島国際大学	3	1	ソーシャルワーク実習
		9/1～9/16	鹿児島国際大学	3	1	介護実習
		9/1～9/22	鹿児島国際大学	3	1	介護実習
		10/28～11/12	鹿児島県立開陽高等学校	2	2	
		12/25～12/26	鹿児島キャリアデザイン専門学校	1	1	
		2/2～2/13	鹿児島国際大学	1	2	介護実習
		2/2～2/6	鹿児島国際大学	2	2	ソーシャルワーク実習
	デイにじ	5/19～5/23	鹿児島県立開陽高等学校	2	3	
		7/8～7/16	鹿児島医療技術専門学校	1	2	
		12/24	鹿児島キャリアデザイン専門学校	1	1	
	デイ本町	7/8～7/16	鹿児島医療技術専門学校	1	2	
		10/14～10/31	鹿児島医療技術専門学校	2	2	
ヘルパー	8/4～8/8	鹿児島国際大学	4	3		
	11/13～11/14	鹿児島女子短期大学	1	2		
看護	ホーム	5/27	赤塚学園看護専門学校	3	3	
		5/28	赤塚学園看護専門学校	3	2	
		9/16～9/18	医療法人協会立看護専門学校	2	3	
		9/22～9/25	医療法人協会立看護専門学校	2	3	
		9/22	赤塚学園看護専門学校	3	4	
		10/6	赤塚学園看護専門学校	3	4	
	デイにじ	10/6～10/9	鹿児島医療技術専門学校	2	3	
		9/8～9/9	医療法人協会立看護専門学校	2	3	
栄養	ホーム	9/10～9/11	医療法人協会立看護専門学校	2	3	
		7/14～7/28	今村学園ライセンスアカデミー	2	1	
保育	保育園	8/18～8/29	鹿児島純心大学	3	1	
		7/2～7/4	谷山北中学校	2	4	職場体験
		11/12～14	鹿児島実業高校	2	2	インターンシップ
		2/16～2/28	鹿児島女子短期大学	1	1	保育実習Ⅰ
					67	

<経営状況について>

1、資産状況

(1) 貸借対照表 2026年3月31日時点

\* 単位 ; 円

勘定科目	期首	前月末	当月末	期首差額	前月末差額
<b>流動資産</b>	590,065,212	748,664,136	615,769,689	25,704,477	-132,894,447
現金預金	452,928,280	480,104,137	474,866,151	21,937,871	-5,237,986
未収金	133,453,802	128,460,718	135,259,606	1,805,804	6,798,888
その他の流動資産	3,683,130	140,099,281	5,643,932	1,960,802	-134,455,349
<b>固定資産</b>	1,779,141,911	1,731,540,011	1,724,759,926	-54,381,985	-6,780,085
(基本財産)	1,640,524,296	1,596,382,886	1,591,485,522	-49,038,774	-4,897,364
(その他固定資産)	138,617,615	135,157,125	133,274,404	-5,343,211	-1,882,721
<b>資産の部合計</b>	2,369,207,123	2,480,204,147	2,340,529,615	-28,677,508	-139,674,532
<b>流動負債</b>	112,369,838	207,885,536	106,454,986	-5,914,852	-101,430,550
短期運営資金借入金	0	0	0	0	0
事業未払金	32,519,774	30,408,988	30,138,404	-2,381,370	-270,584
1年以内返済予定設備資金借入金、他	52,048,000	8,304,000	47,818,000	-4,230,000	39,514,000
預り金	2,319,823	7,544,194	2,304,845	-14,978	-5,239,349
賞与引当金	25,482,241	25,482,241	26,193,737	711,496	711,496
その他の流動負債	0	136,146,113	0	0	-136,146,113
<b>固定負債</b>	188,219,565	187,979,565	142,051,143	-46,168,422	-45,928,422
設備資金借入金	160,527,000	160,527,000	112,709,000	-47,818,000	-47,818,000
リース債務	0	0	0	0	0
退職給付引当金	22,742,565	22,502,565	24,092,143	1,349,578	1,589,578
その他の固定負債	4,950,000	4,950,000	5,250,000	300,000	300,000
<b>負債の部合計</b>	300,589,403	395,865,101	248,506,129	-52,083,274	-147,358,972
<b>基本金</b>	432,006,010	432,006,010	432,006,010	0	0
国庫補助金等特別積立金	382,759,345	360,052,166	357,987,868	-24,771,477	-2,064,298
「保育所施設・設備整備」積立金	32,148,020	32,148,020	32,148,020	0	0
次期繰越活動増減差額	1,221,704,345	1,260,132,850	1,269,881,588	48,177,243	9,748,738
(うち当期活動増減差額)	71,017,458	38,428,505	48,177,243	-22,840,215	9,748,738
<b>純資産の部合計</b>	2,068,617,720	2,084,339,046	2,092,023,486	23,405,766	7,684,440
<b>負債及び純資産の部合計</b>	2,369,207,123	2,480,204,147	2,340,529,615	-28,677,508	-139,674,532

- ・3月末の現金預金は474,866,151円でした。資金計画は432,496,237円で+42,369,914円でした。(資金計画対比109.8%、前年度末対比104.8%)
- ・純資産は2,092,023,486円で、期首対比101.1%、+23,405,766円となりました。
- ・流動比率は578.4%、自己資本比率は89.4%でした。
- ・県物価高騰対策追加支援事業補助金827,000円、市物価高騰対策追加支援事業補助金1,322,000円の入金がありました。市保育事業補助金504,800円の入金がありました。
- ・暦日の都合により1月分社会保険料10,603,141円を3月2日に納付しました。
- ・県食事提供サービス支援事業補助金2,718,000円、県サービス継続支援事業補助金1,742,000円を未収計上しました。
- ・保育所委託費の差額1,232,240円と市保育事業補助金1,336,500円を未収計上しました。
- ・保育所人事院勧告分手当の4月支給分人件費等4,029,406円を未払計上しました。
- ・市保育事業補助金の差額返金分1,677,792円を未払計上しました。
- ・施設整備資金借入金の翌年度元金返済分として47,818,000円を計上しました。
- ・賞与引当金の年度末洗い替えを行いました。
- ・県社協退職共済の退職給付引当金1,374,240円、役員退職慰労引当金2,710,000円を計上しました。

(2) 法人全体の事業活動収支報告 <3月迄の累計>

	予算	収益比	実績	収益比	前年度実績	収益比	予算比	前年比
収益	1,074,803,263	100.0%	1,027,440,329	100.0%	1,028,372,001	100.0%	95.6%	99.9%
人件費	706,218,669	65.7%	662,345,080	64.5%	652,079,998	63.4%	93.8%	101.6%
事業費	154,122,087	14.3%	153,261,507	14.9%	145,420,147	14.1%	99.4%	105.4%
事務費	132,971,326	12.4%	127,750,740	12.4%	123,758,189	12.0%	96.1%	103.2%
利用者負担軽減額	2,874,142	0.3%	680,862	0.1%	1,097,904	0.1%	23.7%	62.0%
減価償却費	68,443,102	6.4%	68,089,231	6.6%	69,274,053	6.7%	99.5%	98.3%
費用合計	1,064,629,326	99.1%	1,012,127,420	98.5%	991,960,811	96.5%	95.1%	102.0%
当期活動増減差額	34,945,405	3.3%	40,084,386	3.9%	62,043,473	6.0%	114.7%	64.6%
活動増減差額(国庫補助金除く)	10,173,937	0.9%	15,312,909	1.5%	36,411,190	3.5%	150.5%	42.1%
活動外増減・予備費	-4,168,602	-0.4%	8,097,233	0.8%	8,973,988	0.9%	-194.2%	90.2%
増減差額	6,005,335	0.6%	23,410,142	2.3%	45,385,178	4.4%	389.8%	51.6%
引当後増減差額	6,005,335	0.6%	23,405,766	2.3%	45,385,176	4.4%	389.7%	51.6%

- ・事業活動収支については累計で、事業収益 1,027,440 千円（予算比 95.69%、前年比 99.9%）、事業費用 1,012,127 千円（予算比 95.1%、前年比 102.0%）となり、引当後増減差額は 23,405 千円と、予算比 389.7%、前年比 51.6%となり大幅な減益の厳しい状況となりました。
- ・各事業所の収支状況（収支差額）の特徴  
 予算・前年ともに上回ったのは、デイ本町、保育園でした。  
 予算・前年ともに下回ったのは、本部、デイにじ、小多機、居宅でした。

(3) 事業所別利用状況について <3月迄の累計>

①利用状況／事業所別一覧（2026年3月累計）

	件数					一日平均					日(件)当円				
	実績	予算	予算比	前年実績	前年比	実績	予算	予算比	前年	前年比	実績	予算	予算比	前年	前年比
ホーム	109.5	110.0	99.5%	110.0	99.5%	105.0	108.0	97.2%	105.4	99.7%	14,035.3	14,190.0	98.9%	14,023.9	100.1%
ショート	41.6	45.0	92.4%	43.3	96.1%	9.8	10.8	90.9%	9.4	104.5%	12,364.7	12,448.0	99.3%	12,204.5	101.3%
ホーム+ショート	151.1	155.0	97.5%	153.3	98.6%	114.8	118.8	96.7%	114.8	100.1%					
ケアハウス	28.8	29.0	99.4%	29.4	98.0%	27.3	28.5	95.6%	28.1	97.1%	12,060.4	11,693.0	103.1%	11,784.5	102.3%
デイにじの郷	70.0	77.0	90.9%	73.7	95.0%	25.2	30.0	84.0%	25.0	100.7%	9,343.5	9,400.0	99.4%	9,141.3	102.2%
デイ本町	24.4	25.0	97.7%	24.6	99.3%	10.1	10.3	98.0%	10.0	101.1%	13,003.9	12,800.0	101.6%	12,694.0	102.4%
デイ合計	94.4	102.0	92.6%	98.3	96.1%	35.3	40.3	87.6%	35.0	100.8%					
ヘルパー*休止	21.6	34.0	63.5%	35.9	60.1%	5.5	11.0	49.8%	9.7	56.5%	#DIV/0!	3,400.0	#DIV/0!	3,399.4	#DIV/0!
小規模	20.5	24.0	85.4%	20.5	100.0%						204,284.4	219,899.0	92.9%	214,135.5	95.4%
居宅	80.2	100.0	80.2%	86.1	93.1%						12,712.2	12,577.5	101.1%	15,147.6	83.9%
訪問給食						36.6	45.0	81.3%	34.8	105.1%	888.7	890.0	99.9%	889.7	99.9%
介護計	396.6	444.0	89.3%	423.4	93.7%	182.9	198.6	92.1%	187.5	97.5%					
保育園	79.6	85.3	93.4%	77.3	103.0%										

②収益状況／事業所別一覧（2026年3月累計）

	収入						
	実績	予算	予算差	予算比	前年実績	前年実績差	前年比
ホーム	539,056,478	555,467,834	▲ 16,411,356	97.0%	540,044,886	▲ 988,408	99.8%
ショート	44,318,933	49,073,025	▲ 4,754,092	90.3%	41,710,368	2,608,565	106.3%
ケアハウス	121,464,231	122,914,949	▲ 1,450,718	98.8%	121,101,785	362,446	100.3%
デイにじの郷	73,656,564	87,997,700	▲ 14,341,136	83.7%	71,435,414	2,221,150	103.1%
デイ本町	40,618,119	40,760,336	▲ 142,217	99.7%	39,195,610	1,422,509	103.6%
ヘルパー*休止	7,062,482	13,735,040	▲ 6,672,558	51.4%	12,079,471	▲ 5,016,989	58.5%
小規模	50,583,296	63,677,363	▲ 13,094,067	79.4%	53,964,291	▲ 3,380,995	93.7%
居宅	12,279,899	15,158,388	▲ 2,878,489	81.0%	15,711,705	▲ 3,431,806	78.2%
訪問給食	10,249,109	12,337,486	▲ 2,088,377	83.1%	9,783,403	465,706	104.8%
介護合計	899,289,111	961,122,121	▲ 61,833,010	93.6%	905,026,933	▲ 5,737,822	99.4%
保育園	133,253,687	116,340,053	16,913,634	114.5%	127,325,656	5,928,031	104.7%
本部	6,406,197	6,973,887	▲ 567,690	91.9%	8,408,080	▲ 2,001,883	76.2%
総計	1,038,948,995	1,084,436,061	▲ 45,487,066	95.8%	1,040,760,669	▲ 1,811,674	99.8%

- ・3月迄の収益累計は 1,038,948,995 円で、予算比△45,487,066 円、95.8%、前年比△1,811,674 円、99.8%でした。保育園、本部を除く収益は予算比 93.6%、前年比 99.4%でした。介護職員処遇改善補助金 4,880,709 円、介護サービス事業所等物価高騰対策追加支援事業補助金（県・市）3,135,000 円、県食事提供サービス支援事業補助金 2,718,000 円、県サービス継続支援事業補助金 1,742,000 円、市民間保育士等処遇改善補助事業補助金 4,609,811 円、市保育事業補助金 5,920,218 円、市保育所等給食費支援補助金 1,572,000 円、ユニット過誤調整による報酬差額△5,421,494 円を計上しました。
- ・ホームは、件数、利用者数、日当円ともに予算を下回り、予算比 97.0%、前年比 99.8%でした。
- ・ショートは、件数、利用者数、日当円ともに予算を下回り、予算比 90.3%、前年比

106.3%でした。

- ・ケアハウスは、日当円が予算を上回りましたが、件数、利用者数が予算を下回り、予算比98.8%、前年比100.3%でした。
- ・デイにじは、件数、利用者数、日当円ともに予算を下回り、予算比83.7%、前年比103.1%でした。
- ・デイ本町は、日当円が予算を上回りましたが、件数、利用者数が予算を下回り、予算比99.7%、前年比103.6%でした。
- ・ヘルパーSTは、11月末で事業休止のため、予算比51.4%、前年比58.5%でした。
- ・小規模多機能は、管理数、件当円ともに予算を下回り、予算比79.4%、前年比93.7%でした。
- ・居宅は、件当円が予算を上回りましたが、件数が予算を下回り、予算比81.0%、前年比78.2%でした。
- ・保育園は、予算85.3名に対して在籍79.6名で予算を下回りましたが、保育単価が予算を上回り、予算比114.5%、前年比104.7%でした。

2025年4月～2026年3月(累計) 事業所別 収支差額一覧						
		予 算	実 績	前年度実績	予算比	前年比
本部	収 益	6,973,887	6,406,197	8,408,080	91.9%	76.2%
	費 用	11,319,120	13,194,657	12,137,120	116.6%	108.7%
	収支差額	-4,345,233	-6,788,460	-3,729,040	156.2%	182.0%
ホーム	収 益	555,467,834	539,056,478	540,044,886	97.0%	99.8%
	費 用	562,285,455	528,233,928	507,526,741	93.9%	104.1%
	収支差額	-6,817,621	10,822,550	32,518,145	-158.7%	33.3%
ショート	収 益	49,073,025	44,318,933	41,710,368	90.3%	106.3%
	費 用	51,488,974	47,931,215	45,753,837	93.1%	104.8%
	収支差額	-2,415,949	-3,612,282	-4,043,469	149.5%	89.3%
ホーム+ショート	収 益	604,540,859	583,375,411	581,755,254	96.5%	100.3%
	費 用	613,774,429	576,165,143	553,280,578	93.9%	104.1%
	収支差額	-9,233,570	7,210,268	28,474,676	-78.1%	25.3%
ケアハウス	収 益	122,914,949	121,464,231	121,101,785	98.8%	100.3%
	費 用	116,679,392	114,236,714	111,053,912	97.9%	102.9%
	収支差額	6,235,557	7,227,517	10,047,873	115.9%	71.9%
デイにじ	収 益	87,997,700	73,656,564	71,435,414	83.7%	103.1%
	費 用	67,601,112	66,948,609	62,683,839	99.0%	106.8%
	収支差額	20,396,588	6,707,955	8,751,575	32.9%	76.6%
デイ本町	収 益	40,760,336	40,618,119	39,195,610	99.7%	103.6%
	費 用	36,637,903	36,007,361	35,340,957	98.3%	101.9%
	収支差額	4,122,433	4,610,758	3,854,653	111.8%	119.6%
ヘルパーST	収 益	13,735,040	7,062,482	12,079,471	51.4%	58.5%
	費 用	18,719,135	11,685,765	15,643,778	62.4%	74.7%
	収支差額	-4,984,095	-4,623,283	-3,564,307	92.8%	129.7%
小規模多機能	収 益	63,677,363	50,583,296	53,964,291	79.4%	93.7%
	費 用	61,016,752	50,347,797	52,812,319	82.5%	95.3%
	収支差額	2,660,611	235,499	1,151,972	8.9%	20.4%
居宅介護支援	収 益	15,158,388	12,279,899	15,711,705	81.0%	78.2%
	費 用	19,446,252	19,353,112	17,324,985	99.5%	111.7%
	収支差額	-4,287,864	-7,073,213	-1,613,280	165.0%	438.4%
訪問給食	収 益	12,337,486	10,249,109	9,783,403	83.1%	104.8%
	費 用	10,813,498	8,857,539	9,138,181	81.9%	96.9%
	収支差額	1,523,988	1,391,570	645,222	91.3%	215.7%
初任者研修	収 益	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
	費 用	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
	収支差額	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
介護関係合計	収 益	968,096,008	905,695,308	913,435,013	93.6%	99.2%
	費 用	956,007,593	896,796,697	869,415,669	93.8%	103.1%
	収支差額	12,088,415	8,898,611	44,019,344	73.6%	20.2%
保育園	収 益	116,340,053	133,253,687	127,325,656	114.5%	104.7%
	費 用	122,423,133	118,746,532	125,959,823	97.0%	94.3%
	収支差額	-6,083,080	14,507,155	1,365,833	-238.5%	1062.1%
総合計	収 益	1,084,436,061	1,038,948,995	1,040,760,669	95.8%	99.8%
	費 用	1,078,430,726	1,015,543,229	995,375,492	94.2%	102.0%
	収支差額	6,005,335	23,405,766	45,385,177	389.7%	51.6%

<各事業所の活動報告について(別紙)>

## 1、利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	月平均
件数	108	110	107	110	109	111	109	110	110	109	112	110	1315	109.6
入居	9	5	1	4	2	2	4	3	1	0	3	3	37	3.1
退居	2	5	1	2	3	4	2	1	0	1	6	2	29	2.4
入院	5	5	3	5	7	4	4	2	2	9	4	4	54	4.5
入院延数	74	80	47	27	105	90	69	18	12	124	59	51	756	63.0
1日平均	106.0	110.0	105.1	107.9	104.0	103.3	104.3	108.0	109.3	106.0	104.9	105.1	1274	106.2
日当円	13,752	13,680	13,681	13,718	14,332	14,112	13,878	13,881	13,977	13,888	13,924	15,282	168,105	14,009

## 2、要介護度

年間平均要介護度： 4.25

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
延べ数				365	7,158	13,129	18,035
月平均				30.4	596.5	1094.0	1502.9

## 3、利用状況の特徴

2025年度は入居が37名、退居が29名でした。前年度は入居が29名、退居が33名と昨年と比較し退居者は減少しています。入院については、今年度は入院者延数54名（同一者含む）、入院延日数756日でした。前年度は入院者延数33名、入院延日数が464日と、前年度と比較し入院者延数は21名、入院延日数は292日増加しておりユニット型が占めていました。従来型においては入院者が減少しており、要因の一つに、2024年度から取り組んでいる訪問歯科診療が関係していると考えられます。

利用状況については、稼働率は96%（予算比98%）でした。稼働率低下の要因は退居後の空床と入院による空床が考えられます。空床対策として入所申し込み書受け付け後（入所相談があった時点）で検診を進めることとし、利用者確保に努めていき退居後14日以内に受入れを進めます。

## 4、事業活動の特徴

2025年度の特徴として、2024年の介護報酬改定に伴う加算取得への対応と介護サービス向上に向けた取り組み①医療連携会議の毎月開催による医療や多職種間の連携強化、②認知症チームケアの推進によるケアの質の向上、③訪問歯科診療による口腔管理の向上を推進しました。医療との連携においては、従来型の入院者の減少に繋がるなど成果が見られています。

感染症関係では、2025年10月にユニット型で新型コロナウイルス感染症が発生し、入居者16名職員5名が罹患しました。また、2026年1月にはインフルエンザが猛威をふるい、利用者が8名罹患しましたが、幸い入院することなく嘱託医師の往診治療を受けながら施設内で療養を実施しました。

## 5、事業所運営、教育研修活動の特徴

教育関係では新卒研修を見直し2年目の年でした。2025年度は新卒職員2名の受入れを進め施設内のOJTを進めました。既存の職員に対しては、法人内の研修、喀痰吸引研修、ユニットリーダー研修、職能団体が主催しているリモート研修への積極的な参加を進めました。

2025年度は新卒2名を受け入れたものの、中途採用が進まず体調不良による長期療養者の発生や産休・育休への対応、他事業所への人員支援など全体的に人員不足が深刻化しており、体制づくり・生産性向上と併せた業務の見直しが課題です。引き続き採用対策を進めるとともに、次年度は人材確保の手段として外国人雇用など安定的な事業運営が行えるよう進めていきます。

収益確保のために利用者が退所した後の早期（退居後14日以内）の受入れ、入院者が発生した場合の空床の利用（短期入所の受入れ）など、稼働率を上げる取り組みを強化しています。また、法令順守への対応として義務化された感染症・災害BCPの訓練とシミュレーション、訪問歯科の受入れ、高齢者虐待防止への取り組みとして、委員会の設置と研修会を実施し身体拘束と併せて権利擁護の取り組みを進めました。

## 1、利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	月平均
件数	42	45	46	45	44	42	40	40	43	39	40	34	500	41.7
延数	293	305	336	325	301	290	299	316	313	301	243	279	3601	300.1
新規	4	5	6	4	4	5	1	4	6	2	2	1	44	3.7
キャンセル	59	16	39	54	23	43	24	15	24	28	33	51	409	34.1
平均介護度	3.0	3.1	3.1	3.0	3.1	2.9	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	37.19	3.1
1日平均	9.8	9.8	11.2	10.5	9.7	9.7	9.6	10.5	10.0	9.8	8.7	9.0	118.3	9.9
日当円	11,129	12,957	11,644	12,484	13,147	12,146	12,304	12,331	12,296	11,998	12,331	13,387	148,153	12,346

## 2、要介護度 年間平均要介護度 3.1

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
延べ数	0	38	465	767	884	667	761
月平均	0.0	3.1	38.8	63.9	73.6	55.6	63.4

## 3、利用状況の特徴

2025年度は、利用者の移り変わりがある中で、在宅生活が困難な利用者様の相談や、家族のニーズに合わせた利用者様の積極的な受け入れを行いました。（主介護者入院等による緊急ショートや入居を見据えた定期的な利用、台風避難時の利用等）また、毎月実施している合同での営業訪問により、新規利用者様の獲得、新規居宅事業所からの紹介によって、少しずつ成果として表れています。感染症関係ではショートステイ入所時の体調確認や感染症予防に努め、急な変化にも迅速に対応し感染を広げることなく運営ができており、昨年度と比較しても件数や延べ数の増加、キャンセル日数の減少に繋がっています。引き続き、感染症予防に努め、ご家族・ケアマネージャーとの情報共有を行い、利用者様の定着に繋げることができるように取り組みを進めます。

## 4、事業活動の特徴

2025年度も継続して、他事業所との合同訪問を強化し、各居宅介護支援事業所への訪問を行いました。訪問時には利用者様のご様子を画像などを用いてケアマネージャーへ説明しました。利用者様に対しては、歩行訓練や創作活動、地域ボランティアのバンド活動や踊りの鑑賞等に参加いただき、ご家族様へ活動内容を紹介することで、安心され定期的な施設利用に繋がっています。今後も日中活動にも重視して受け入れを進めます。経営改善向けの活動として、入居者の空床を活用することで緊急的な受け入れにも対応しています。ケアマネージャーやご家族から利用の相談があった際に、柔軟な対応が行えるよう、工夫しながら、迅速かつ丁寧に対応していくことで信頼関係の構築と新規利用者様の獲得に努めます。

## 5、事業所運営、教育研修活動の特徴

昨年度は新型コロナウイルス感染症によって、利用者数の減少など影響を受けた為、2025年度は感染症を持ち込まないように各部署との連携を図り努めました。結果として感染症を施設内に持ち込むことなく、水際で食い止めることができています。また、利用者様の現状やご家族様の思いに寄り添い、急変時の対応（看取り期も含む）について確認しています。常にご家族様の思いを担当ケアマネージャーと確認し、安心してご利用できるためにも引き続き情報共有を図り、職責や担当職員へ説明し情報を共有しました。サービスの質向上に向けて、地域ボランティアのバンド演奏や踊りの見学、施設内でのレクリエーション活動、にじのさと保育園児との交流など、利用者様に喜ばれる活動に努めます。

## 1、利用状況（2025年4月～2026年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	月平均
件数	29	29	29	29	27	29	29	29	30	29	29	29	347	28.9
入所	0	0	0	1	0	2	0	3	0	0	0	2	8	0.6
退所	0	0	1	1	1	0	3	0	0	0	2	0	8	0.6
入院	0	0	3	1	1	1	0	1	1	1	1	0	10	0.8
入院延数	0	0	40	72	36	68	62	5	45	36	28	0	392	37.9
1日平均	29.0	28.5	27.0	26.0	25.8	26.1	25.4	27.5	27.5	27.8	28.0	27.5	326	27.1
日当円	11,248	11,022	11,224	11,373	12,157	11,596	11,495	11,409	11,543	11,778	11,101	11,483	137,429	11,452

## 2、要介護度 年間平均要介護度 1.7

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
延べ数			177	52	71	22	4
月平均			14.7	4.3	5.9	1.8	0.3

## 3、利用状況の特徴

今年度の利用者様の入退居状況については、昨年度は入居者10名、退居者9名に対し今年度は入居者8名、退居者8名と入退居の動きは減少しました。

退居者状況については、特別養護老人ホーム入所2名（にじの郷入所2名）、長期入院5名、入院中の死亡2名、特別養護老人ホームへの転所については、法人事業所との連携により、転所後も心身面も安定し中間施設としての役割を果たしました。

入院については、昨年度は入院延日数は167日に対し今年度は392日と増加しましたが、転倒骨折、脳梗塞による長期入院でした。

平均介護度については、昨年度は1.8に対し今年度は1.7と推移しており、収益への影響にも繋がり今後の対応が課題となりました。

## 4、事業活動の特徴

入居申し込みについては、法人事業所による連携により居宅介護支援事業所、小規模多機能ホームからの紹介もあり入居申し込み件数の安定に繋がりました。

また、法人事業所の特別養護老人ホームへの転所も事前に打合せを行い、円滑な入所に繋がりました。

入居者様の安心した生活を維持するための特別養護老人ホームへの転所でしたが、要介護3以上の入居者様が減ることと新たなケアハウスへの入居者様については要介護2以下の方になるため平均介護度が下がり予算への影響が避けられない状況にありました。

## 5、事業所運営、教育研修活動の特徴

事業運営において入居者様のご家族、地域の方々による支援をいただいています。運営推進会議、地域の防犯パトロールなど、地域との結びつきが事業運営に関係し入居者様も地域の行事等を楽しみにされている方も多いです。

ボランティアの方々の協力や機能訓練については職員も共同で催しを行いました。入居者様の幼少期から現役時代の頃の懐かしい歌などを演奏し入居者様に喜ばれています。

入居者様ひとり一人の意欲を導き出すことも介護の大きな役割であり現状の中からケアとしての課題として取り組みました。

研修については、職能団体によるテーマ別研修への参加や資格習得の為の学習に取り組みました。

## 1、利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	月平均
件数	68	66	69	71	71	70	71	71	74	73	71	66	841	70.1
新規	3	1	4	4	3	1	4	3	4	2	1	1	31	2.6
再開	2	0	0	2	0	1	0	0	2	1	2	2	12	1.0
中止	3	3	1	4	3	3	3	3	3	4	5	8	43	3.6
1日平均	24.2	24.2	24.4	25.0	25.0	25.5	25.8	26.6	26.2	26.2	25.1	24.0	302.2	25.2
日当円	9,218	9,356	9,348	9,200	9,214	9,305	9,067	9,311	9,139	9,122	9,275	9,200	110,755	9229.6

## 2、要介護度 年間平均要介護度 : 1.67

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
延べ数	536	1095	2582	1588	1422	473	89
月平均	44.67	91.25	215.17	132.33	118.50	39.42	7.42

## 3、利用状況の特徴

- ・件数は70.1件で予算比91.0%(前年比95.1%)、一日平均は24.0人で予算比84.0%(前年比100.8%)、日当円は9,229円で予算比98.1%(前年比100.9%)と予算を下回っている状況です。体調不良による入院やキャンセル、施設入所等で予算を大きく下回りました。
- ・月平均の新規件数:2.6件で前年比-0.1件と同水準となっています。
- ・月平均の中止件数:3.6件で前年比-0.8件と減少。月平均の中止+休止件数も6.6件となり前年比-2.3件とこちらも減少しています。中止者(休止者)をいかに少なくできるかを課題として挙げていましたが改善傾向にあります。昨年度に引き続き1月から3月にかけての利用中止と休止が多い状況にあります。
- ・体験利用からの新規利用の流れが定着しています。今年度は36件の体験利用から22件の新規利用に繋がりました。体験利用からの定着率は61.1%となっており、前年比+2.3%となっています。体験利用では事前の連絡にて本人様(ご家族)の要望等を伺い、当日は要望等を踏まえたサービス提供を実施。体験利用後はご家族とケアマネに写真や動画にて様子をお伝えしました。

## 4、事業活動の特徴

- ・利用者様に合わせた活動の提案、利用者様からの提案も取り入れての活動を提供。利用者様が主体的に運動、家事手伝い、余暇活動に取り組みました。
- ・外出レクリエーションでは桜やバラ、コスモス等の季節の花の見物や初詣等を企画、希望者全員をお連れすることが出来ました。
- ・外部交流(ボランティア)として、紅友会(毎月)ととびくまバンド(隔月)の協力がありました。またサクソフォン演奏会、ウクレレ演奏会もあり、多くの利用者様に好評でした。短時間ですが、保育園児との交流も出来ました。
- ・初の試みとして紫陽花ガーデンを行ないました。例年、外出レクでの紫陽花見物ですが、今年は紫陽花を持ち寄って実施。利用者様やご家族、地域の方々の協力のもと、多くの紫陽花が集まり大盛況でした。
- ・機能訓練では利用者様の状態把握に努め、個別計画に沿って実施。パワーリハビリや可動域訓練、平行棒や階段を使つての歩行・昇降訓練等を行い、身体機能の維持、向上に向けて取り組みました。要支援利用者様は毎月の体力測定と評価、要介護利用者様は3カ月ごとの評価を実施。個別での機能訓練に加え、集団での体操や口腔嚥下体操も実施しています。

## 5、事業所運営、教育研修活動の特徴

- ・職員体制では午前6名、午後5名の介護職員配置を基本として稼働。個別対応が必要な方(認知症、重度、特浴等)や当日キャンセル数に応じて随時配置数を調整しました。
- ・7月に職員1名、9月に職員2名のコロナ感染がありました。その他にも利用者様、職員や職員家族のインフルエンザ感染もありましたが、他利用者様、他職員への感染なく収束しています。
- ・8月に運営指導がありました。それに伴い、例年より早い時期での各種基準や加算要件に応じた書類の点検整備を行ないました。
- ・一部加算変更を行ないました(サービス提供体制加算Ⅱ→サービス提供体制加算Ⅰ)。7月上旬の居宅訪問時にケアマネに説明、合わせて利用者様とご家族にも順次説明、同意をいただきました。7月中旬に鹿児島市に変更届を提出、8月より算定開始となりました。
- ・部内研修計画を立て、毎月の部門会議内で学習会を実施しました。

## 1、利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	月平均
件数	20	23	25	25	25	25	25	26	25	24	25	26	294	24.5
新規	1	4	2	0	1	1	0	2	0	2	1	2	16	1.3
再開	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0.2
中止	1	1	0	0	1	2	0	1	1	3	1	1	12	1.0
1日平均	8.6	9.6	11.0	10.4	9.7	10.7	10.1	9.9	9.8	10.5	10.2	10.6	121.1	10.1
日当円	12,791	12,173	12,965	12,800	14,565	12,727	12,832	12,121	13,458	13,218	13,025	13,644	156,319	13,027

## 2、要介護度 年間平均要介護度： 2.46

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
延べ数	12	9	91	48	82	21	31
月平均	1.0	0.8	7.6	4.0	6.8	1.8	2.6

## 3、利用状況の特徴

2025年度の利用状況は、新規利用16名、再開2名、中止12名で前年度の新規利用9名、再開2名、中止15名に対して、新規利用では+7名となりました。1日平均では6月に11.0名がありましたが累計では10.1名と予算に0.2名届きませんでした。下期の目標として、毎月1名の新規利用獲得に取り組み、毎月の獲得としては目標を達成できませんでしたが、累計では7名となり目標の6名を超えることができました。新規利用16名の要介護度の内訳は、要介護1が5名、要介護2が5名、要介護3が1名、要介護4が3名、要介護5が2名（平均介護度2.5）となり、サービス移行・併用利用が6名、サービス利用に繋がっていない方々の利用が10名となりました。累計の平均介護度は2.46で、前年度の2.28から+0.18となりました。

利用中止12名の平均介護度は2.3でした。要介護度の内訳は、要支援2が1名、要介護1が3名、要介護2が3名、要介護3が4名、要介護4が1名となり、12名の内、施設入所が3名、入院が4名、永眠が2名、他事業所移行が3名となりました。

日当円では、予算の12,800円に対し13,027円（+227円）となりました。

## 4、事業活動の特徴

事業活動の特徴としては、1日1回外に出かけることを目標に季節の花々を見ながらの公園散歩や街の風景やクルーズ船を見にドライブに出かけました。また、ご家族から花の見ごろの場所の情報も頂きながら慈眼寺公園や錦江湾公園、ふれあいスポーツランドや都市農業センターなどに出かけました。また、季節の行事では敬老会とクリスマス会での職員の出し物を昨年引き続き継続して実施することができました。

活動面では、生け花や買い物レク、洗い物などの家事活動、歌活動でのキーボード演奏など利用者様の趣味や役割活動の充実に取り組みました。

ボランティアの受け入れでは、介護施設ボランティアポイント事業から1名、オカリナ演奏ボランティア3名の方が継続して来ていただいています。実習生の受け入れでは、7月と10月に鹿児島医療技術専門学校1年生2名、2年生3名の受け入れを行いました。

## 5、事業所運営、教育研修活動の特徴

運営面では2023年7月から取り組んでいる事業所内での目標（件数28件、1日平均10.8名、計画時11.0名、追加・振替利用5日/月）に向けて職員全体で新規利用獲得の強化に取り組みました。目標には届いていませんが年間の新規利用者数の増加や追加・振替利用の増加につながりました。（累計：追加利用74日、キャンセル223日）

8月と2月に運営推進会議を開催し、町内会の方や民生委員の方、ご家族代表の方、包括支援センターより貴重な意見をいただく事が出来ました。

職員体制面では、上期で2名の支援を頂き安定した運営に取り組みました。

教育研修活動では、非常勤職員1名が介護福祉士の国家試験に合格し、安定した加算の算定ができています。外部研修への参加があまりできていないことが課題となりました。

## 1、利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	月平均
件数	20	20	21	22	23	22	20	20	20	21	17	21	247	20.6
新規	3	0	1	1	1	1	0	1	0	1	0	4	13	1.1
再開	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0.2
中止	2	0	0	0	0	2	2	1	1	1	3	0	12	1.0
件当円	206,765	212,784	205,212	208,656	209,570	191,625	189,167	207,090	191,876	197,000	214,893	197,251	2,431,889	202,657

## 2、要介護度 年間平均要介護度：1.50

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
延べ数	269	341	2,388	1,830	627	1	0
月平均	22.4	28.4	199.0	152.5	52.3	0.1	0

## 3、利用状況の特徴

- ・予算比で件数85.8%、事業収益79.2%と予算差額も13,000,000円以上あり、大きく下回りました。件当円も92.4%と前年度より15,000円以上少なくなっています。登録数も予算より少ないですが、年間平均介護度が1.5と昨年より下がった要因は要支援の利用者が増えたことと要介護3以上の利用者が少なかったことによるものです。
- ・2025年度は新規利用が独居の方が主で、数か月の利用で体調不良で入院となり中止につながるケースが3件ありました。新規利用に関しては、退院後急がれるケースも多く、宿泊もできるという本来のサービスが、うまく活用できずに断るケースもありました。関連施設を持っているので将来状態変化があった場合の対応に安心であるという理由や支援から介護に変わる可能性のある方の紹介を病院の地域連携室や包括支援センターから紹介は続いています。職員体制や配置にも考慮する必要もありました。定期的に宿泊を希望される方も増えてきていることや収益を上げるためにも体制を整えていく必要があります。

## 4、事業活動の特徴

- ・入浴やひとりの時間の短縮が目的の通いと安否確認や服薬確認・配食の訪問サービス提供が主となっていますが、定期的な宿泊サービスもご家族の介護負担軽減を目的とした利用として定着しています。
- ・通いではご家族の勤務時間に合わせ遅めの送迎や入浴嫌いな方、通所利用が嫌な方への誘い方にも日々工夫しています。
- ・今までの習慣が継続できるように高齢者福祉センターへ送る支援や公民館の交流時に挨拶をするなど近隣の方と連絡をいただける関係も構築しています。
- ・体調についてはご家族はもちろん、主治医や病院へ電話や手紙で情報を提供しています。変化を早期に伝えることで内服薬の検討や服薬忘れなど主治医と連携をとり薬を朝にまとめるなど支援いただいています。
- ・福祉用具の事業者へも退院時の家屋調査や必要な道具の相談、用具の調整など連携を取り、本人に合ったものを提供していただきました。
- ・訪問は月平均300回以上のサービス提供を行っています。訪問内容は配薬、配食(昼・夕)、安否・所在確認、買い物支援や受診同行を行っています。
- ・介護負担軽減を目的とした定期での宿泊だけでなく、天候に応じて安全対策のために宿泊を勧めることもありました。

## 5、事業所運営、教育研修活動の特徴

- ・運営推進会議の開催を定期的に行い、様々な意見や情報交換ができ活動に取り入れています。情報をいただき中山地域の消防訓練の参加や地域ケア会議にも参加できました。
- ・地域の利用者家族が週に1回程度、ボランティアとして花の手入れの活動にみえています。職員との交流もでき話しやすい関係作りも進めています。
- ・職員の役割交代を積極的に行い、自主的に業務分担に取り組んでいます。部門会議でのミニ学習会の講師を輪番制で行い自主学習の機会を作っています。新任職員の安全運転や指導にも全員で取り組みました。
- ・研修計画を作成し、部門会議内の学習会や法人学習会に参加出来なかった職員へはレポートの提出を促し、職員全員の周知に取り組んでいます。県連交流集会の事例紹介や認知症介護実践者研修に1名参加し修了しました。

## 1、利用状況

2025 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	月平均
新規	1	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0.5
再開	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	4	0.3
中止	3	2	2	1	2	2	1	7	24	0	0	0	44	3.7
一日平均	9.3	8.1	8.3	9.1	8.4	8.4	8.0	5.7	0.0	0.0	0.0	0.0	65.3	5.4
日当円	3,430	3,289	3,548	3,451	3,927	3,308	3,625	3,474	0	0	0	0	28,052	2,337

## 2、要介護度

年間平均要介護度：1.6

2024 年度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	年計	年平均介護度
延べ数	682	265	1,047	829	342	295	18	3,478	
月平均	56.8	22.1	87.3	69.1	28.5	24.6	1.5	289.8	1.6
2025 年度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	年計	年平均介護度
延べ数	484	271	579	420	82	137	0	1,973	
月平均	60.5	33.9	72.4	4.9	10.3	17.1	0.0	199.1	1.3

※2025 年度は 11 月実績までの延べ数で算定しています。

## 3、利用状況の特徴

## 1) 利用状況

・8月より事業休止に向けた準備を進め、下半期の新規受け入れは0件となりました。事業を休止した11月末日までの新規と再開を合わせて10件、中止が44件でした。中止の内訳は施設入所3件、入院9件、休止にともなう事業所変更32件、新規6件のうち要介護認定者3件、要支援認定者3件でした。

## 2) 要介護度

・体制不足により要介護度が高い方が入院した後の新規受け入れができなかったため、前年に比べ年平均介護度が減少しました。

## 4、事業活動の特徴

## 1) サービスの質を高め、訪問介護の専門性を発揮し、選ばれる事業所作りを行いました。

- ・職員、一人ひとりの個人目標にあわせ、部門会議での学習会を開催しました。
- ・ヒヤリハット報告、事故報告は早期に記載するように努め、事故報告書は回覧し、改善に努めました。

## 2) ご利用者が住み慣れた家で安心して生活を送っていただけるよう支援しました。

- ・職員の体調不良は早急に責任者に報告し、勤務体制を調整することで利用者が安定してサービスを受けられるようにしました。
- ・健康面や生活上の不安を傾聴し、ケアマネジャーへの連携や他サービス事業所へ連絡を行い早期の解決に努めました。また、自費サービスの相談にも柔軟に対応しました。

## 3) 法令を順守したサービスの提供を行いました。

- ・ご利用者の支援に関して、サービス提供に関する計画書等の見直し、職員の理解を深め、適正な支援を行いました。

## 4) 新規利用者の拡大に取り組み、選ばれる事業所を目指し経営改善に努めました。

- ・定期的に包括支援センターや居宅支援事業所を訪問し、空き状況の周知、ご利用者の利用状況報告を行いました。

## 5) 鹿児島市の日常生活支援総合事業の円滑な運営に努めました。

- ・予防型訪問介護サービスの提供を継続しつつ、住み慣れたご自宅で自立した生活を送れるように取り組みました。

## 6) 実習生の受け入れを行い、地域貢献を行いました。

- ・6月に鹿児島医療福祉専門学校より2名、8月に鹿児島国際大学より4名の実習生を受け入れました。

## 5、事業所運営、教育研修活動の特徴

- ・登録職員の新規採用は厳しい状況でしたが、新規利用者の受け入れを柔軟に取り組みました。
- ・訪問介護マニュアル、計画書、手順書の定期的な見直しを行いました。
- ・チーム会議で利用者情報を共有し、サービスの統一、質の向上に努めました。

## 1、利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	月平均
件数	85	79	79	82	81	82	80	80	81	79	77	76	961	80.1
新規	3	2	4	5	1	2	1	2	2	3	0	3	28	2.3
再開	0	0	0	2	0	1	0	0	1	0	1	0	5	0.4
中止	4	8	4	4	2	2	3	2	2	5	3	4	43	3.6
日当円	15,381	15,153	15,240	11,930	11,649	12,139	11,615	11,896	11,567	12,054	11,998	11,821	152,443	12,704

## 2、要介護度 年間平均要介護度： 1.9

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
延べ数			437	296	112	79	37
月平均			36.42	24.67	9.33	6.58	3.08

## 3、利用状況の特徴

今年度は、給付管理数100件、日当円12,579円、1,257,900円/月の予算でした。件当円では予算を上回っておりますが、収入・件数ともに予算に届かず、利用者件数平均80件/月、収入平均1,018,162円/月という結果です。また、介護度3以上の利用者の占める割合は昨年度より1.3%上昇しましたが、要介護1・2の方が76%、要介護度3以上の方が24%と軽度者が占める割合が高い状況です。

新規利用者 28件（45）内訳は、ご家族から5件（10）、地域包括支援センターから15件（17）、病院・サービス事業所から8件（18）となり退院等の再開利用は5件（6）でした。新規相談は、定期的にあります。つながらずに経過観察の利用もある状況でした。今年度の特徴としては、介護相談会を毎月定期的に行い、地域や地域包括支援センター、地域連携室へ広報活動を行ったことにより地域包括支援センターやご家族から相談会を通じて新規へ繋がったケースが多くありました。

中止については、43件（39）、内訳は入院18件（13）、死去6件（8）、施設入所12件（14）予防給付へ移行3件（1）、居宅変更2件（0）、転居1件（0）、サービス利用をすべて中止1件（3）でした。中止の件数は、入院、施設入所が主でした。

\*昨年度件数（ ）

## 4、事業活動の特徴

今年度も、コロナ禍における対応について各機関と連携を図り支援しました。居宅介護支援の業務においては、新型コロナウイルス感染症の取り扱いが5類へ移行しましたが、医療機関や事業所ごとに対応が異なり確認を行いながら対応し、利用者様やご家族に説明と理解を得ながら支援をしました。また、感染症の対応は緩和されましたが、高齢者は感染リスクが高く、重症化も考えられるため、利用者様やご家族がストレスを感じたり、サービス事業所や関連機関等でも様々に影響を受けています。在宅療養が可能になるように利用者様、ご家族と課題を整理しサービスの追加や変更などの調整を行ないました。2025年3月より相談機能強化（介護相談会）を毎月実施することができました。1か月あたりの相談件数は少ないですが、定期的に相談を受け、希望のサービス利用や施設への入所へ繋がった方もいらっしゃいました。

## 5、事業所運営、教育研修活動の特徴

管理者交代や7月の体制変更に伴い特定事業所加算の算定ができなくなり、1月も管理者交代、職員の異動がありました。業務の見直し、指導を行いながら適正な事業所運営に努めました。利用者様やご家族の相談対応を行い、各サービス事業所、医療機関とも密に連絡を取りながら、業務を遂行しました。新型コロナウイルスやその他感染症の感染予防対策を行い、感染症の状況や地域及び利用者様、ご家族状況を把握し関係機関と連携し、感染拡大の防止策を取り支援を行いました。

法人学習会や職員育成委員会などの研修、例年行われるWeb研修も多く開催され、計画を立て受講し、事業所で周知し学習会を行いました。研修会の開催はオンラインが多い状況ではありますが、会場での開催や再開する研修も増えてきました。新たな感染症、災害への強化、緊急時の業務継続（BCP）の取り組み、マニュアルの見直し、虐待防止の推進等にむけて、利用者様の緊急連絡簿の作成、避難場所の聞き取り等を訪問時に聴取しています。また、ヤングケアラーや障害者、生活困窮者、難病疾患など高齢者以外の対象への支援に関する事例検討会や研修会へ参加をしました。居宅介護支援では、今まで行ってきた地域の居宅介護支援事業所や関係機関と合同での交流会や地域ケア会議、学習会「谷北やってみよ会」はWeb、会場での開催に参加することができました。また、定例の居宅会議でマネジメントの手法や認知症について学習会、情報交換を行いながら、事例検討会を行いマネジメントの力、知識を深めました。

介護支援専門員の研修では要件に合わせて更新や専門研修、主任介護支援専門員研修への参加を行いました。今年度、利用者満足度アンケート調査は中止し、個別に自己評価での業務の振り返りをしました。ご家族からの施設への相談などに対応し、必要時特養ホームや関連施設への紹介をスムーズに行えるよう、業務を行っています。

運営基準や必要に応じて保険者に確認をとり、適正な事業所運営を行うことができました。

## 1、利用状況

## ①園児数（1日時点の人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	月平均
0歳児	3	3	3	4	4	4	4	5	6	8	8	8	60	5.0
1歳児	14	14	14	15	15	15	15	15	15	15	15	15	177	14.8
2歳児	14	13	13	13	13	13	13	13	14	15	15	15	164	13.7
3歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	17	17	17	17	212	17.7
4歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	15.0
5歳児	14	14	14	14	14	14	14	13	13	13	13	13	163	13.6
合計(名)	78	77	77	79	79	79	79	79	80	83	83	83	956	79.7

## ②延長保育・一時預かり

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	月平均
延長保育	181	170	175	183	127	144	178	102	132	120	120	110	1,742	145.2
利用件数	28	18	25	22	22	17	22	21	23	15	15	16	244	20.3
一時保育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
利用件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0

## 2、保育活動の特徴

2025年度4月(4/1)は園児78名を受け入れ、4月に2名退園、10月に2名退園、11月に1名退園があり、3月現在の在園児は83名です。平均在園児数は79.7名で前年(78.4名)を1.3名上回りました。延長保育は月平均145.2名で前年(202.3名)を57.1名下回りました。延長保育の月平均実利用児童数は20.3名です。

保育では乳児部、幼児部で異年齢児の関わりを取り入れた保育を多く実施しました。子どもたちは小さいお友だちをお世話したり、一緒に遊ぶなど子ども同士での育ちあう姿も見られました。行事では誕生会、園外保育、プール遊び、みかん狩り、クリスマス会、凧あげ、発表会など取り組みましたが、春の親子遠足、川遊びは天候の関係で園内での開催となりました。運動会は「きみいろみつけ♪ 19(いく)よー! おー!」をテーマに、気持ちを一つに、笑顔がいっぱい、元気にあふれた、みんなの運動会ができました。気になる園児への対応は保護者と話し合いながら、育児相談の実施、児童発達支援事業所、小学校等の関係機関との連携を図りました。

冬場にインフルエンザ感染症が発生し、園児20名、職員5名が罹患しました。園では園児の健康管理、手洗い・うがい、マスクの着用等の徹底を行い、保護者に対しては定期的に感染状況を報告しました。また、鹿児島市感染症対策課へ「発生」「終息」の報告を行いました。

## 3、保育園運営の特徴

- 職員(3/21現在)は正規保育士8名(3/1付、1名採用)、嘱託4名、パート9名、アルバイト2名、事務パート2名(子育て支援員1名)、園長1名の26名です。職員確保は一定進んでいますが、職員の安定的な配置が行えるように取り組みます。
- 全職員会議、乳児部・幼児部会議、パート会議を定期的に開催し、職員間の意志一致、情報共有を図りました。
- キャリアアップ研修は今年度4名が受講し5科目終了しました。引き続き、研修計画をすすめます。
- 運動会では保護者、保育者で子どもたちの身体の育ちや心の育ちを確認することができました。
- 給食室の協力をもらいながら、食育の取り組みを行いました。
- 土曜日については保育利用を確認し、仕事が休みの方は家庭保育の協力をお願いしました。園児の休みがわかることで、職員配置を工夫することができました。
- 12月に発生したインフルエンザ感染症の拡大防止に取り組みました。